

千葉県建築文化賞

第16回表彰作品集



2009年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

第16回千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募いただき、誠にありがとうございました。

今回は68点の応募がありましたが、いずれも千葉県の建築文化の高い水準を示す素晴らしい作品でした。

その中から、千葉県建築文化賞選考委員会の厳正な審査により、建築文化賞4点及び建築文化奨励賞4点が選定されました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する意識を高め、潤いと安らぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設されたものです。

現在、応募作品は累計1,347点にも及び、県民の居住環境や街づくりに関する意識を高め、人に優しく美しい街づくりに大きく寄与しております。

県では、本年4月から、「暮らし満足度日本一」を基本理念に掲げた総合計画「輝け!ちば元気プラン」がスタートします。この計画は、私たちが直面する様々な課題を乗り越え、光り輝く千葉を築いて次世代に確実に引き継いでいこうとするものです。

こうした中で、優れた建築物は、潤いや安らぎに満ちた美しい街並みを実現するとともに、千葉県の魅力を高め、観光など地域の活性化にも大きく貢献しています。

また、高齢者や障害者など誰もが利用しやすい建築物や、環境への負荷軽減を図った建築物は、生活文化の新しいモデルとなり得るものと期待されているところです。

県としましては、今後とも、優れた建築物を表彰する本制度を通じ、美しく快適な街づくりを進めてまいりますので、引き続き、県民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、選考委員をはじめ、関係団体の方々の御協力に感謝申し上げますとともに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈りしまして、あいさついたします。

1

目次

千葉県建築文化賞について	1	大多喜町街なみ環境整備事業景観形成地区	7
第16回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	長南町立長南中学校	7
回向院市川別院	3	Care House INO(けあはうすいの)	8
音楽ホールのある家	4	House in Sakura(はうすいん さくら)	8
産経新聞印刷千鳥センター	5	千葉県建築文化賞の選考の実績と基準	9
神田外語大学7号館	6	受賞作品の位置	10

第16回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募68点から8点入賞

(選考経過)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

第16回千葉県建築文化賞は平成21年7月の委員会で募集要領を定め、8月から9月中旬まで応募を受け付け、総数68点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)点数は昨年より11点増加し、過去2年間一桁台だったユニバーサルデザイン部門の応募も12件に回復した。きびしい経済情勢を反映して大規模な作品は少ないが、中小規模の作品は今回も質の高いものがそろっていた。千葉県における建築文化の水準を守り育てている関係者の努力に敬意を表したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門4点、ユニバーサルデザイン部門3点、環境部門3点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞4点、建築文化奨励賞4点を表彰候補作品として決定した。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観上優れた建築物		38	4	2	2
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		12	3	1	1
環境に配慮した建築物		18	3	1	1
合計		68	10	4	4

(総評)

景観上優れた建築物

景観部門への応募は38点で、その内1件が継続活動によって景観の維持・向上を実現している建築物群であった。選考にあたっては両者を区別せず、魅力ある景観形成と地域の景観向上への寄与の観点から総合的に評価した。その結果、建築文化賞2点、奨励賞2点を選定した。

建築文化賞の「回向院市川別院」は、コンクリート造を木造屋根で覆う混構造の建物であり、近隣環境に配慮しつつ、国府台の緑豊かな環境に溶け込む端正なデザインが高く評価された。

「音楽ホールのある家」は、公園に臨む立地を考慮し、大きな勾配屋根によって、緑の環境との調和を図りつつ景観を引き締めている。また、住宅地側では木の壁で柔らかな表情をつくり、公園の緑との視覚的連続性に配慮している。

奨励賞の「大多喜町街並み環境整備事業景観形成地区」は、城下町の街並み再現を目指し、平成10年から建築物や屋外広告物の修理・修景に取り組んできた実績が評価され、「長南町立長南中学校」は、地域の原風景を保ちつつ、新たなシンボルとなる教室棟と体育館を付加した計画が評価された。

ユニバーサルデザインに 配慮した建築物

この部門への応募は12点であり、昨年の4点を大きく上回った。医療・福祉関係の施設だけでなく、工場、住宅など、幅広い用途の建築物に佳品が見られた。

建築文化賞の「産経新聞印刷千鳥センター」は、従業員にも見学者にも利用しやすい快適な環境を実現すると同時に、巨大な工場を3つに分節し、圧迫感の少ないすっきりしたデザインを実現している。

奨励賞の「Care House INO(けあ はうす いの)」は、車椅子の高齢者と三世代の家族に、自立しつつ緊密なコミュニケーションをとって暮らす場を提供している。

環境に配慮した建築物

この部門への応募は18点であり、今回も幅広い用途の建築物において環境への興味深い配慮が見られた。

建築文化賞の「神田外語大学7号館」は、屋上緑化、ガラスコーンからの自然換気、氷蓄熱による床吹出し空調などを採用するとともに、高速道路に面する南と西の壁面にL字形に設備コアを配してエネルギー損失を抑えている。

奨励賞の「House in Sakura(はうす いん さくら)」は、長方形の筒型ボックスをずらしながら細長く連ねて自然通風を図り、蓄熱式床暖房と併せてエアコンに頼らない住環境を目指した野心的な住宅である。